

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296800028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム菊川 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県菊川市堀之内1464		
自己評価作成日	平成25年10月22日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2296800028-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2296800028-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年10月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念『安らぎと喜びの家』を掲げ、入居者様が「安らぎと喜び」をこのホームで感じて頂きます。「人生の第二の我が家」として、ここ愛の家グループホーム菊川にて安心して生活して頂ける事を目標とし、入居者様の援助を行ってまいります。  
ご家族様との関係を良好に保つ為にも、連絡や報告をしっかりと行い、トラブルの発生予防などにも心掛けております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

区画整理が進み新たな環境の中で事業所の在り様を探る中、本年度は「一緒にいきいたいやあ」という利用者の言葉を機に外出支援に力を入れました。積極的に近隣を訪ね歩いた結果予想もしない出会いに驚き、今まで知り得なかった馴染みの場所を発見する貴重な機会となりました。この取組みは地域との交流を深め職員の気づきを促すものとして今後も継続していきたいと考えており、事業所周辺マップに落とし込み、法人内の報告会でも発表されています。また、利用者一人ひとりに若かりし頃の写真が添えられた「自分史」が作成され、これによって語られるライフレビューが信頼関係に功奏しています。「言葉に耳を傾けよう」を合言葉に「その人らしさ」が丁寧に紡がれている事業所です。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の運営理念を朝礼時に唱和し、夕方の申し送り時にはホームの運営理念を唱和して、意識の向上及び共有を図っている。	新しいホーム運営理念を、と目標を掲げ会議の場でも検討しましたが、「安らぎと喜びの家」という理念はまだ達成できていないのでは」ということに至り、引き続きこの理念の徹底を図っていきたいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の清掃活動に参加したり、周辺に散歩に出かけた時は、挨拶を心掛けている。地域からの要望でボランティアの受入も行った。(中学生福祉体験)	散歩の機会が増え公園では話しかけてくれる人もいて、会話からの交流で中学生ボランティアの受入に繋がった例もあります。自治会清掃には職員が参加していますが、時間帯が合えば利用者も参加したい意向があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校からの福祉体験授業の受入を行っている。認知症サポーターとして、地域の認知症講座の講師として説明も行っている。(10/6実施)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期開催を実施しており、市職員、民生委員、近隣特養施設長の参加にて行っている。しかし、最近の参加者の数が少なく、今後検討の必要あり。	実践報告会での発表内容や“ご家族様との集い、”について具体的に報告が行われています。認知症についての勉強会やイベントと併催するなど、できるだけ多数参加してもらえるよう工夫しています。	運営推進会議が、事業所運営の理解とさまざまな情報発信の場として活用されるよう、新たな参加メンバーの検討を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場や、毎週木曜日が地域交流活動の日になっており、行政なども訪問したりして、協力関係を築いている。もう少し回数は増やしていきたい。	毎週木曜日の地域交流活動において行政、地域包括支援センターとの交流を深めることができています。市の依頼で認知症サポーター養成講座を実施し、理解度も高かったことがアンケートから確認できました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、社内的にもマニュアルがあり、ホーム内研修も実施して職員の意識徹底に勤めている。今年についても、研修実施済み。	スピーチロックは“禁止用語、”として意識づけられ、現在のところ聞かれていません。外出機会が増えたことで利用者のメンタル面が安定し、職員にも余裕が生まれていると感じています。気づきを促すためもあり、日報の中で“ひやりはっ”と対応策を必ず記載しており、それらは会議を通じて検討、共有が図られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修にて、虐待の防止について勉強している。今年についても、研修実施済み。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修にて、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の読み合わせを行ない、不安や疑問点の確認を行っている。その後の問合せなどにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置と、運営推進会議の場を利用して。年1回ではあるが、ご家族様アンケートの実施し意見の収集を行っており、その対応についても、しっかりとご家族様に対して報告している。	アンケートで確認した事柄は毎月のお便りで回答しており、早めの対応がみられます。本年度は「ご家族様との集い」として駄菓子屋を企画、その後のお茶会で個々の職員が直接家族の意見を聴く機会をもちました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議(1回/月)、ユニット会議(1回/月)契約更新時に面接も合わせて実施し、意見を聞く機会を設けている。	職員からは、日頃よりケアにおける記録の在り方や行事計画、外出先について等、活発な意見が交わされています。会議の場ではそれぞれの職員が自分の意見をもって臨むことができていると管理者は感じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社にて職員アンケートを実施し、職員の意識調査及び意見などをくみ上げていくように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時に、業務の理解度を把握できる様に、マニュアル化された書式があり、それに基づいて教育を行っている。「新人さんノート」により、交換日記的に悩みなどを解決できる様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2年程前より、システムデザイン研究所様の働き掛けにより、西部地区のグループホーム、デイサービス、福祉施設との合同研修会に参加中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前のアセスメントで、ご本人様の情報を極力把握し、ケアプランに織り込んでいく。スタッフ全員が情報共有し、ご本人様との信頼関係を築く事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、ご家族様との面接を十分に行ない、少しでも不安な気持ちが和らぐように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの1ヵ月後の更新時に、ご家族様と話し合いを行い、要望など確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や買い物、外出関係など一緒に出来る事は共に行ない、入居者様の意思も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院などの協力もお願いし、普段から体調面の連絡なども電話にて行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にアセスメントを行い、ご家族様の状況や名前(愛称、呼び方)、自宅の場所などについて把握し、ケアを行う中で活用できる様に行っている。近所に知り合いがいて、声を掛けてくれる事もあった。	散歩を通して新たな馴染みの関係も増え、マップや「気づきシート」で情報が共有されていることを確認できました。家族の協力を得ながら馴染みの理髪店に通い、おしゃべりを楽しんでいる利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時の席や、普段過ごされる時の席の配置など、入居者様の性格や相性、性別なども考慮し決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後に、畑の手入れや野菜を持ってきて下さったり、入居中に使用していた備品(ご家族様としては不要となった物)を寄付して下さいましたこともあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録の中で、ご本人から発せられる言葉などに注目し、ご本人の思いをくみ取る努力を行ない、ケアプランに反映している。	気づきシートやケアプランには本人の発語が細かく記され、想いを吸い上げる努力が覗えます。また、アルバム仕立ての“自分史”が制作され、利用者の生き生きとした表情や話を引き出す仕掛けがあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅へ訪問し、部屋のレイアウトの確認を行い、ホームにて環境の変化が極力少なく済む様に考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々記録し、1日の流れ、様子などを把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と話す事が出来る方については、直に要望などを伺い、ご家族様については、面会時又は自宅へ出向き話しを伺っている。	日々の気づきは担当職員のみならず全職員で記録し、サービス担当者会議やモニタリングに役立てています。発語を中心に据えて課題を抽出することで、想いを具現化するための細やかなプラン作成が叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議にて話し合いを行い、モニタリングについては、常時記入できる様に各ユニットに対象者の用紙を置き、自由に記入できる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出や、通院介助への対応を行っている。これらの他にも、今後個別対応が出来る事について検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧版などから地域で開催されるイベントを把握し、参加の検討なども行っている。以前には、レンガ倉庫で開催された落語に行かれた事もあった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される時に、かかりつけ医の確認を行い、現状の医師を希望される場合はそれを尊重し、ご家族様の協力を得る事も確認している。	受診は家族が行っていますが、協力医へは職員も同行し、必要な情報は記録の上申し送りをにて情報共有に努めています。また、誤薬や飲み忘れは服用後の空袋のチェックを徹底させ防いでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、週1回の勤務である為、看護申し送り簿へスタッフが記入を行ない、それに対して看護師が回答するような形でコミュニケーションを取っている。ケアマネ、ホーム長が様子を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し介護サマリー(会社指定書式)を病院側に提出し、情報提供を行っている。病院へ出向き、入院中の状況把握にも努め、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様へ説明を行ない、書面にて同意のサインを頂いている。	重度化の指針について契約時に同意を得ています。要望があった場合は、医療との連携や家族の協力、職員の受入れ態勢等を考慮しながら、都度話し合いをもち、できるだけ取り組みを行いたい考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の研修(消防署)やホーム内研修にて訓練を行っている。(9月に開催済み、新人2名参加)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に避難誘導訓練を行っている。地域の方については、近年参加されていない。(以前参加の呼びかけをした事はありません)	運営推進会議での呼びかけで地域のリーダーの出席が叶いました。様々な想定で行っていますが、実際の災害では職員だけの避難誘導もあることを考え、訓練の積み重ねが必要と感じています。	消防署の立ち会いを経て、発災した場合の具体的な避難誘導方法について習得する機会をつくることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各自個室にて生活されており、居室に入る時は、ノック又は声掛けを行ない、ご本人様の了承を得て入室している。言葉掛については、信頼関係が出来ている中では、敬語にとらわれず、家族的な言葉もあってよいと考えて指導している。	排泄ケアにおいては、それと気づかない誘導で羞恥心への配慮が成され、また、落ち着きなく立ち上がる利用者に対しては、そっと静かに付き添うといった、尊厳を大事にしたケアが実践されていることを視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶会の日には、ご本人の希望をお聞きして飲み物の種類を決めたり、外出時には、買いたい物などを伺っている。お茶会については、最近開催が減っており、見直しの時期に来ていると考える。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランについて、その人らしい暮らしができる様に考えている。まだ全ての入居者様について対応出来ているとは言えないが、支援に努めていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭がのびていないか、髪の毛は整えてあるか、服装は季節にあった物かなど注意している。女性の入居者様の中で、毎朝お化粧をされている方もおられる。そういったことは大事にしていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ここでは厨房があり、調理師が常に良事を準備している為、毎日の生活の中で入居者様が食事作りに関する事は少なくなってしまう。毎週木曜日を調理の日として、主にカレーライスなどをユニットにて調理している。	厨房では専門の調理師によって食事が準備され、味付け、彩ともに利用者の満足感につながっています。またユニットで参加型のメニューに変更して、利用者自ら調理を楽しむ日もあります。洗い物や食器の拭き上げを役割としている利用者もいて活気があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社からのメニュー表をもとに良事を提供している。水分量については、バイタル表の中に項目があり、1日を通しての水分量を管理している。特に夏場の脱水予防について、水分チェック表にてしっかりと管理されていたと思われる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在、朝夕の口腔ケアを主に実施し、昼については自分で出来る方が自分の判断にて行う形にしている。(歯科医相談の結果)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて、1日の状態を管理している。自宅ではリハビリパンツを使っていた方が、入居されてから普通のパンツに戻せた方もいるので、引き続き自立に向けた支援は行っていきたい。	排泄チェック表や本人の様子から、失敗のない支援を心がけていますが、できるだけ排泄用品に頼らない姿勢を貫いて取組んでいきたいと考えています。夜間は安眠優先で一人ひとりに合わせた排泄支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩など運動に関する事を理解し、飲食についてもヨーグルトや牛乳など、便秘に良いとされる乳酸菌を使った物を摂るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯については、午後の時間帯を入浴の時間としている。(14:15～16:00位)日によって時間帯の変更(午前昼や16:00以降などもあり)もある。しかし、1週間単位での入浴回数については、ご家族様からの要望もあり検討していかなければいけない。	リラックスできた雰囲気からこぼれる言葉により多様な情報を得る貴重な時間となっています。「入浴回数を知りたい」との家族意見に対し、毎月のお便りに入浴表を添えて可視化しました。体調不良や拒否には足浴などで対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居される前の自宅での生活パターンを把握し、大きな変化がないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の用法、量、種類、名称などが見られるように、各ユニットに投薬一覧表のファイルが準備してある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前のアセスメントにて調査し、ご家族様にも様子を伺い協力も依頼している。ホームにて落ち着いて生活できる様に努力している。趣味の部分では、編み物などを行っている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日のイベントなどで希望の場所へ外出に出かけたり、普段の買い物では、希望のスーパー(えんてつストア)などへ出掛けたりしている。ご家族様とは、一部の入居者様が外出などされている状況であり、数は少ない。	日常の会話で聞かれる本人の言葉に耳を傾けて、散歩や外出の機会を意識的に毎日作るようになり、夜間の安眠につながっています。以前は外気浴の時間を決めて取組んでいましたが、今では生活の一部になったと実感しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ホーム内では、お金を所持している方はおらず、事務所にて管理している。入居前には持っておられたが、ご家族様の希望にて事務所にて保管している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい方がいらっしゃれば事務所にて対応している。以前携帯電話を持っておられる方がいたが、本人がいないとの事で解約されている。手紙についても、年賀状など出される方がおり対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の時間はテレビを消して静かな音楽をかけて食事に集中できる様にしている。朝には1度窓を開けて、空気の入替えもやっている。	採光のための吹き抜けは冬場でも暖かく過ごせます。感染症対策研修で学んだ清掃の大切さは、コンタクトポイントの念入りの清掃に昇華しています。洗濯物をたたむ人、洗い物に集中する人、それぞれの役割が発揮されて共有空間が居心地の良いものであることが感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる空間としては、ご自分の居室を使用して頂き、食堂ではテレビを見たり、気のあった方とおしゃべりを楽しんで頂くような場として、ご利用頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅に訪問し、自室内の配置関係をホームでも再現できるようにご家族様にも相談し、心地よい空間となるように心掛けている。	単調になりがちな入口には短いのれんがかけられ、彩と個性を出しています。夜間目覚めた時にも混乱なく、動線が自宅と同じになるような家具の配置を心がけています。日中、散歩等で活動している時間を居室掃除に充てることで清掃も行き届いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様の身体的特徴(麻痺の有無、視力など)を理解し、導線となる部分には危険な物を置かない様に配慮している。夜間トイレに起きる方などは、導線に手すりとなるような椅子を配置したりもしている。		